



ハイライトよねやま 142

1 公益財団法人として新たなスタートの年に



2012年の年頭に当たり、嬉しいご報告をいたします。この数年間、全国34地区から選出された理事・評議員の皆さまにご検討頂いてきた、公益法人移行の申請作業が終了し、1月4日付で公益財団法人ロータリー米山記念奨学会としての登記が完了しました。事業内容はこれまでと変わりませんが、法律の改正を受け、「評議員」の役割が変わって4年間の任期となり、また、決算報告などの提出先が従来の文部科学省から内閣府に変わるなど、ガバナンス上の変更があります。

ロータリアンの減少もあって寄付は厳しい状況ですが、今後とも公益財団法人ロータリー米山記念奨学会へのご支援をお願いいたします。(事務局長 坂下博康)

2 寄付金速報 — 2012年もよろしくお願ひします —

12月までの寄付金は前年同期と比べて2.6%減、約2,000万円減少の7億9,200万円となりました。普通寄付金が1.2%減、特別寄付金が3.1%減でしたが、5人の方々から各100万円のご寄付をいただいたこともあり、12月単月だけで比較すると約760万円増加しました。多くの皆様からのご支援に心から感謝申し上げます。

なお、今月初めに「2011年度 下期普通寄付金のお願い」を各ガバナー事務所経由で全クラブ宛にメール等でお送りしています。普通寄付金は当会事業の安定財源となる大切なご寄付です。毎年金額が変動する特別寄付金だけでは、留学生への奨学金給付という公益事業の安定的・継続的な財源とはなりません。ぜひ当会の事業内容をご理解の上、普通寄付金のご送金をよろしくお願ひいたします。

3 台湾学友会総会・ロータリークラブ訪問記

12月17日、社団法人中華民國扶輪米山会(台湾米山学友会)の年次総会が台北市内で開かれました。100人を超える学友のほか、日本からは第2600・2750・2660地区のロータリアン約20人が参加。例年行われる外部講師の講演、理事会報告、新入会員の紹介に加え、台湾学友会が支援する日本人奨学生がスピーチをしました。

また、今回の出張では、台湾の米山学友が中心となっている3つのクラブを訪問しました。日本語を公用語とし17年の歴史を持つ台北東海RC、米山学友がチャーター幹事を務め、台湾で3番目の日本語クラブとして昨年設立されたばかりの台北南山RC、台中の米山学友が中心となって設立した台中中文心RC(例会は中国語)。どのクラブもそれぞれの特徴を大事にしながら発展しています。台湾では新世代クラブの増加が著しく、台中中文心RCが最近設立した子クラブの平均年齢は32歳、また、台北南山RCが属する第3520地区では、ここ数年間で4つの新世代クラブが誕生したそうです。台湾のロータリー会員数は昨年12月末時点で約21,500人ですが、5年半前に比べて約4,500人、約26%も増加しています。台湾学友会による奨学事業や新世代クラブの増加を見て、日本の米山記念奨学事業が撒き、育てた奉仕の理想が、台湾で花開いていることを実感しました。(事務局長 坂下博康)



活動報告のなかで子クラブの紹介をする
台中中文心RCの林岳毅さん

活動報告のなかで子クラブの紹介をする
台中中文心RCの林岳毅さん

4 地区大会で米山セッション — 第 2660 地区 —

2011 年 11 月 11-12 日に開催された第 2660 地区 地区大会第 1 日目に、「米山修了生とともに理想の米山奨学生像を語る」をテーマとするセッションが開かれました。

登壇したのはこの日のために台湾から来日した許國文さん(1975-77 / 徳島 R C / 羅東西 R C 会員)と林維宏さん(1987-88 / 岡山南 R C / 台北民生 R C 会員)そして第 2750 地区・東京米山友愛 R C から 2011-12 年度会長の林芳さん(2008-10 / 東京麻布 R C)と、ギリ・ラムさん(1998-2000 / 室蘭 R C)の 4 人です。台湾学友会が実施している日本人への奨学金制度や、ロータリアンとしての具体的活動など各人がスピーチをした後、地区米山奨学委員長の武島秀吉氏がコーディネーターを務めて、パネルディスカッションが行われました。



また、今地区大会では同地区初の試みとして、奨学生・学友が母国のお茶を提供するコーナーが設けられました。学友や奨学生が自ら用意したというお茶はバラエティに富んでおり、「これはどんな味？」と、奨学生らに話しかけながら喉を潤すロータリアンの姿が多く見られました。同地区学友会会長の朴日さん(2003-04 / 大阪東淀ちゃやまち R C)は、「日ごろお世話になっているロータリアンの皆さんが楽しんで下さって嬉しい。

来年はもっと沢山の方に味わっていただければ」と、笑顔で抱負を語ってくれました。

5 ロータリアンの家族から台湾学友会に寄付

この第 2660 地区大会に参加した台湾学友会の許國文さんと林維宏さんに、ロータリアンのご家族から嬉しい申し出がありました。同学友会が日本への恩返しとして、台湾に留学する日本人学生を奨学支援していることに感銘を受けた西谷文江さんが毎年 10 万円を 4 年間、この奨学事業のために寄付したいと申し出てくださったのです。西谷さんは同地区米山記念奨学副委員長を務める西谷雅之氏のお母様で、添えられていた手紙には「大学に入学した孫の学業成就を願い、寄付先を模索していたところ、貴学友会の日本人支援奨学金のことを聞き、同じ日本人として大変感謝するとともに、私も微力ながらお手伝いさせて頂きたいと思うようになりました」とありました。



西谷文江さん(前列左)からの寄付を受け取る許さん(同右)と林さん

台湾学友会では、今年の 3 期生から奨学人数を 2 人に増やし、これまでの奨学生とも交流を続けて、若い日本人への支援にますます意欲的に取り組んでいます。それに共感したロータリアンのご家族からの寄付に、同学友会理事長の許さんはあらためて深い感謝の意を表しています。

確定申告用領収証 ～1 月末日までにクラブへお届けします～

昨年 1 年間(1~12 月)で 2,000 円以上の特別寄付をされた方、もしくは普通寄付金の領収証を申請したクラブには、1 月末日までに(確定申告に間に合うように)認定証の写しが付いた申告用領収証をロータリークラブ宛に送付します。

今年もよろしく
お願いします!

